

午後 試験

全問に共通して、文字の記述が乱雑なものや誤字脱字が目立つもの、論旨がはっきりせず論述内容が理解しづらいものがあった。このような論述では、論述内容を正しく読み取れない場合もあるので、是非留意してもらいたい。また、一般論や問題文の引用に終始するものも目立った。このような論述では、受験者の能力や経験を正しく評価できない場合がある。対象業務との関連や実際の経験を踏まえて具体的に論述してほしい。

問 1 (要件定義について) では、ユーザ要求をヒアリングする際の留意点、どのように要件としてまとめたか、まとめる際の工夫についての論述を求めたが、ヒアリングに関する記述がないものや、留意点が不明確なもの、作業の記述に終始しているものが目立った。また、“ヒアリングする際の留意点”、“まとめる際の工夫した点”の記述ではなく、要件定義の内容をそのまま論述したものが散見された。

問 2 (システムの段階移行について) では、実際の移行経験を踏まえた、並行運用期間中の具体的な課題と対応方法についての論述を期待したが、単なる移行の経過や、移行の手順を説明している論述が多かった。また、業務の特性を踏まえての記述を求めているにもかかわらず、業務的観点が欠落している論述も散見された。

問 3 (組込みシステムにおける適切な外部調達について) では、組込みシステム開発の具体的な経験を対象としているが、クライアントサーバシステムにおけるソフトウェアパッケージ開発など組込みシステムの範ちゅうに含まれない対象について論述したものが散見された。外部調達が必要になった背景、外部調達のための分析や検討内容と結論については、具体的で良い論述が多かった。一方、その評価については、採用した方針や検討された案に対する具体的な論述を期待したが、一般論に終始しているものが目立った。